

1985年度／昭和60年度（昭和60年4月～昭和61年3月）



役員

部長：阪埜 光男
名誉師範：清水 正一
師範：清水 直臣、安藤 勝英、加藤 雅晴
総監督：成毛 秀臣
監督：橋本 光蔵
主将：奥山 昇
主務：本橋 弘治
副将：田村 俊二、井出 恵士
幹事：高崎 郁雄
学連委員：大隅 智弘、小林 達
4年生：山崎 健史、小泉 勝裕
体育会兼任委員：尾辻 英史
副務：西脇謙二郎、厚見 直哉
新人監督：許斐 氏隆
日吉高コーチ：尾川 豊隆、渡辺 新、久保田正広
志木高コーチ：清水 勉、池田 伸之
普通部コーチ：末永 二郎、清水 賢
中等部コーチ：河野 文彦、加賀美有一
幼稚舎コーチ：尾辻 英史、鈴木 康之
月次係：新井 基之
合宿所主務：古井戸康雄
合宿所副務：渡辺 新

61年卒同期に思う我が体育会柔道部

本橋 弘治

我が同期は、実に個性豊かなメンバー揃いであった。

主将は川越高校出身の奥山昇、体育会兼任常任委員としても塾に貢献した。「高血圧」「神経痛」「年々退化する毛髪」という三重苦にもめげぬひた向きな姿勢は先輩・後輩の胸を打った。彼が50ccのバイクで道場に颯爽と現れる姿を見て、加藤雅晴師範は「ボリショイサーカスの熊」と評した。

副将には、高松高校出身の田村俊二と塾高から柔道部に籍を置く井出恵士を置いた。2人とも稽古は好きでなかったが、根っからの柔道好きで、常に相手を休ませない厳しい試合を旨としていた。井出は機を見るに敏、状況変化を計算して行動するタイプで、淡々と落ち着いて試合を進める巧者だったが、技が決まる前に試合時間がなくなることが常だった。一方、田村には不思議と人を惹きつける魅力があり、後輩からも先輩からも好かれた。気前が良く、「ここぞ！」という時には本当に頼りになるが、山際昇先輩の攻撃にも、同期をかばって自分から犠牲になってしまうのだった。

柔道部一の有名人は許斐氏隆。先天的な明るさ、人なつこさ故に、多くの先輩に可愛がられ、多くの後輩から慕われ、また恐れられた。幼稚舎出身。柔道部に籍を置いたその時から将来の柱として嘱望された。塾高1年の日大三島遠征の頃から百戦錬磨の実力を蓄えた。決して柔道セン

スが良いわけではない。彼の負けん気と人には見せない努力のおかげである。

軽量級のホープは土佐の有名選手 山崎健史で、自分にも他人にも厳しい男。一本氣で激する
と誰にも止められなく快男児。膝の靭帯を切ったことで、全国トップ選手としての活躍の夢は絶
たれたが、軽量ながらも、塾柔道部の主要選手として常に活躍した。最後の早慶戦では点滴を受
けながらも、高熱を押して出場。華麗な技に観客を沸かせた。

小泉勝裕は常に地道に稽古に取り組む最軽量選手で、あまりの小ささから「ミニコ」と呼ばれたが、常に毅然とした態度、手を抜かない稽古ぶりで誰からも一目置かれる存在だった。普通部
から慶應で学んだこの逸材は、日ごろは温和だが、飲酒が過ぎると人が変わるという性癖を持
っていた。

我が同期で最も個性に優れ、機知に富んでいたのは高崎郁雄その人である。天衣無縫なその性
格は幼稚舎から純粹培養された穢れのない潔癖さと、常人では発想できないユニークさをあわせ
持っていた。周囲にはいつも笑いが絶えない。彼のムードメーカーに我々はいつも救われた。常に
怪我に悩まされたが稽古の手を抜くことはない。彼の力みなぎる技は、見た目よりもずっとしな
やかに相手を畳に沈めるのであった。

そして、忘れてはならない（忘れようにも忘れられない）のが、新潟高校出身、一級上の山際
昇先輩の存在である。奇想天外なイタズラで、いつも後輩達を苦しめた。この先輩のおかげで、
世の中には不条理なこともあるということを社会に出る前に学ぶことが出来た。実は面倒見の良
い、相談にはきちんと乗ってくれる優しい心を持った先輩で、卒業は我々と同年になった。卒業
後も新潟での武勇伝は尽きないようだ。

同期も後輩達も元気余って頻繁に事件を起こしたが、なんとか、その都度、事無きを得た。主務
の私は何度体育会事務室に呼び出されたかわからない。

苦しかった思い出は多い。筑波での中央大・筑波大との合同合宿、勝浦の警視庁合宿、春日の
警視庁武道館への出稽古、4年間惜敗し続けた早慶戦、特に最後の4年の時の早慶戦では、合宿
所で風邪が流行り、最悪の状態で試合を迎える羽目になった。主務として、選手の健康管理に万
全を期すことができなかった後悔は大きく、今でも時折夢を見る。

楽しかった思い出も多い。タイ・シンガポール・台湾への遠征合宿、合宿所の中庭で行う焼肉
パーティー、5号・6号室をつなげて大勢で盛り上がる鍋大会、出発前からビニール袋が満杯に
なるバス旅行。遊びから学んだことも多かった。

そして、我々は本当に多くの先生、先輩のご指導、ご支援の元で塾柔道部生活を送ることができ
た。コーチに就任した、近藤啓一郎先輩は早慶戦までの数ヶ月合宿所に泊り込んでご指導頂いた。
毎日の練習にも現れた。「ちゃんと仕事しているのか？」後輩が心配する程の熱心さだった。

4年の夏の四国遠征。今は亡き加藤先生と高松の夜に早慶戦の勝利を誓って乾杯した。

奥山主将の歌う「新潟ブルース」に目を閉じて聞き入っておられた姿が瞼に浮かぶ。

成毛総監督、橋本監督には、並々ならぬご指導を頂いたし、ご心配もお掛けした。あれから1
5年の歳月を過ぎて思い出すのは、同期や先輩、後輩の姿ばかりである。塾柔道部の活動こそが、
大学時代の生活そのものであり、思い出であった。未来永劫、この塾柔道部で若者が研鑽を積み、
知力体力を養い続けることを願って止まない。

試合記録

■第34回 東京学生柔道優勝大会 昭和60年6月2日 日本武道館

1回戦	本塾	3	-	0	明治学院大
	小野 英次 1年	○	裏投		天野勝彦
	永井 勝 3年		引分け		富永裕之
	尾川 豊隆 3年	○	払腰		中殿英樹
	田村 俊二 3年		引分け		吉岡数吉
	許斐 氏隆 3年	○	払腰		神田隆史
	井出 恵士 4年		引分け		川島茂樹
	奥山 昇 4年		引分け		切田克志
2回戦	本塾	1	-	4	大東文化大
	小野 英次 1年	○	背負投げ		伊藤博隆
	河野 文彦 3年		引分け		吉田皇祐
	尾川 豊隆 3年		引分け		三田雅仁
	古井戸康雄 3年		横四方固め	○	野口幸造
	許斐 氏隆 3年		大内刈り	⊖	野沢武志
	井出 恵士 4年		大外刈り	○	江口善幸
	奥山 昇 4年		大外刈り	○	堀 鏡

■第4回 東京学生柔道体重別選手権大会 昭和60年9月16日 日本武道館

-60kg級	1回戦	小泉 裕 4年	○	裏投	伊藤敏広	立正大
-65kg級	1回戦	山崎 健史 4年			シード	
	2回戦	山崎 健史 4年	○	片羽絞り	工藤隆貴	明星大
	3回戦	山崎 健史 4年		大外刈り	○	大熊正彦 東海大
	1回戦	清水 賢 2年			シード	
	2回戦	清水 賢 2年		背負投げ	○	町田 実 専修大
-71kg級	1回戦	田村 俊二 3年	○	横四方固め	吉村剛英	高千穂商大
	2回戦	田村 俊二 3年	⊖	判定	杉林 武 東京農大	
	3回戦	田村 俊二 3年	⊖	小内刈り	池田良久 駒沢大	
	4回戦	田村 俊二 3年		地獄絞り	○	森山孝臣 東海大
	1回戦	河野 文彦 3年	○	不戦勝		
	2回戦	河野 文彦 3年		警告	⊖	比嘉憲義 東海大
-78kg級	1回戦	井出 恵士 4年	○	背負投げ	堀越 博 明星大	
	2回戦	井出 恵士 4年	○	出足払	小椋和郎 上智大	
	3回戦	井出 恵士 4年		大内刈り	井上浩二 中央大	
	1回戦	高崎 郁雄 4年	⊖	判定	伊藤哲男 順天堂大	
	2回戦	高崎 郁雄 4年	⊖	判定	長田昌貴 青山学院大	
	3回戦	高崎 郁雄 4年		背負投げ	⊖	喜多光成 国士館大
	1回戦	渡辺 新 2年			シード	
	2回戦	渡辺 新 2年		大外刈り	⊖	山本尚由 青山学院大
-86kg級	1回戦	古井戸康雄 3年		小外刈り	⊖	三木勝仁 東洋大
	1回戦	篠田 幸彦 2年	⊖	判定	福田将人 立教大	
	2回戦	篠田 幸彦 2年		横四方固め	○	朝比奈秀典 専修大
-95kg級	1回戦	許斐 氏隆 3年		大外返し	○	矢沢良之 順天堂大
	1回戦	小野 英次 1年		小外刈り	⊖	麻生房義 国士館大
95kg級	1回戦	奥山 昇 4年	⊖	指導		山本廣勝 國學院大
	1回戦	尾川 豊隆 3年	○	不戦勝		
	2回戦	尾川 豊隆 3年		払腰	○	新里治久 東海大

■第17回 全日本柔道新人体重別選手権大会東京予選

昭和60年9月29日 講道館

-65kg級	1回戦	清水 賢	2年	内股	○	寺戸 剛	東洋大
	1回戦	畠田 耕士	1年	合せ技	○	牧 秀俊	拓殖大
	1回戦	真野 照久	1年	巴投げ	⊖	服部弘幸	亜細亜大
	1回戦	倉形 興斎	1年	背負投げ	○	富吉 司	東洋大
-71kg級	1回戦	小林 達	2年	○	不戦勝	鈴木雄三	創価大
	2回戦	小林 達	2年	合せ技	○	横田憲二	世田谷学園高
	1回戦	山田 直	2年	判定	⊖	大前喜彦	日本体育大
	1回戦	岩崎 清信	1年	横四方固め	○	小黒沢正智	国士館大
-78kg級	1回戦	小林 俊二	1年	一本背負い	○	酒井貴雄	駒沢大
-86kg級	1回戦	鈴木 康之	2年			シード	
	2回戦	鈴木 康之	2年	体落し	○	山盛 勝	警視庁
95kg級	1回戦	新井 基之	2年	袈裟固め	○	吉田一夫	東海大

■第37回 早慶対抗柔道戦 昭和60年10月10日 日吉記念館

本 勢				○	早稲田大 4人残し
					優秀選手：山崎健司、渡辺新、小野英次
篠田 幸彦	2年	一本背負い	⊖	小 泉	
新井 基之	2年	引分け	⊖	小 泉	
渡辺 新	2年	○	関節技	長 瀬	
渡辺 新	2年	腕拉ぎ十字固め	○	竹 末	
石本 千明	1年	一本背負い	⊖	竹 末	
許斐 氏隆	3年	引分け	⊖	竹 末	
山田 直	2年	大外刈り	○	亀 山	
清水 勉	3年	引分け	⊖	亀 山	
久保田正広	2年	引分け	⊖	鎌 田	
高崎 郁雄	4年	合せ技	○	高 木	
山崎 健史	4年	○	内股すかし	高 木	
山崎 健史	4年	○	内股すかし	鶴 津	
山崎 健史	4年		払腰	大 島	
山西 良彦	3年		横四方固め	大 島	
永井 勝	3年		引分け	大 島	
石井 敏	1年	○	横四方固め	坪 川	
石井 敏	1年		腕拉ぎ十字固め	川 上	
奥山 昇	4年		引分け	川 上	
田村 俊二	3年	⊖	注意	小曾根	
田村 俊二	3年		背負投げ	切 刀	
古井戸康雄	3年	○	背負投げ	切 刀	
古井戸康雄	3年		すくい投げ	大 塚	
河野 文彦	3年		引分け	大 塚	
尾川 豊隆	3年		払腰	大 友	
小野 英次	1年	○	崩れ上四方固め	大 友	
小野 英次	1年	○	横四方固め	二本松	
小野 英次	1年		背負投げ	三 浦	
井出 恵士	4年		体落し	三 浦	
				山 本	
				吉 国	

■第37回 全日本学生柔道選手権大会東西対抗試合東京予選 昭和60年10月19日 法政大学柔道場

1回戦	奥山 昇	4年	○	横四方固め	⊖	南井考樹	法政大
1回戦	許斐 氏隆	3年	○	大外刈り	⊖	原 茂樹	明星大
1回戦	小野 英次	1年		判定	⊖	玉田宏一	立正大
2回戦	許斐 氏隆	4年		袈裟固め	○	井上浩二	中央大

■第28回 東京学生柔道二部優勝大会 昭和60年10月20日 警視庁武道館

1回戦	シード					
2回戦	本塾	6	-	0	立教大	
	小野 英次 1年	○	大外刈り		田畠義之	
	山崎 健史 4年	⊖	足払い		西条 賢	
	渡辺 新 2年	○	内股		横尾清吉	
	尾川 豊隆 3年	○	横四方固め		大熊俊行	
	許斐 氏隆 3年	○	払腰		沢田芳之	
	古井戸康雄 3年		引分け		福田将人	
	河野 文彦 3年	○	関節技		小泉 透	
3回戦	本塾	5	-	1	玉川大	
	小野 英次 1年	○	横四方固め		相沢 訓	
	山崎 健史 4年	○	背負投げ		八木義之	
	渡辺 新 2年		返し技	○	前田典人	
	尾川 豊隆 3年	○	内股		高田 譲	
	許斐 氏隆 3年	○	払腰		佐藤和男	
	古井戸康雄 3年	○	大内刈り		赤坂博生	
	河野 文彦 3年		引分け		前田洋二	
準決勝	本塾	5	-	2	駒沢大	
	小野 英次 1年	○	崩れ上四方固め		田中英隆	
	尾川 豊隆 3年		合せ技	○	大崎光弘	
	渡辺 新 2年	○	大外刈り		成海 誠	
	山崎 健史 4年	⊖	内股		塩谷健一郎	
	許斐 氏隆 3年	○	払腰		斎藤常明	
	古井戸康雄 3年	⊖	背負投げ		池田良久	
	河野 文彦 3年		袈裟固め	○	大越昭夫	
決勝	本塾	4	-	3	東京農業大	優勝、優秀選手：古井戸康雄、渡辺新、小野英次
	小野 英次 1年	⊖	小内刈り		野口吉正	
	山崎 健史 4年		払腰	⊖	菊地 正	
	渡辺 新 2年	⊖	上四方固め		轟田	
	尾川 豊隆 3年	○	内股		塚崎康之	
	許斐 氏隆 3年		払腰	○	和泉 博	
	古井戸康雄 3年	○	背負投げ		池田孝司	
	河野 文彦 3年		腕拉ぎ十字固め	○	杉林 武	

三田柔友会九州支部

1 正式名称：『三田柔友会九州支部』と称しています。

2 どんな会か？：（正式な趣意書、会則等はありませんが）会員間の親睦を図るとともに、塾柔道部の発展を側面から支援することを目的にしています。

3 発足年月：不明

4 メンバー人数：10名程度

柔友会の名簿を兼用し、年に一度、私から先輩方に連絡を差し上げる様にしており、独自の名簿を作成しておりません。さらに、支店長クラスで転勤して来られ、2年ほどで東京に戻られるというケースが多く入れ代わりが激しい。在九州という意味で言えば固定メンバーは5、6人です。

5 連絡先：渡邊 裕二（平成3年商学部卒）

九州電力株式会社 総務部 勤務

電話 092-761-3031

e-mail : yuuji_watanabe@kyuden.co.jp

6 常連メンバー：

- 1 新宮 松比古（昭和37年）
- 2 小高 喜久夫（昭和41年）
- 3 橋田 紘一（昭和41年）
- 4 野田 侃生（昭和41年）
- 5 稲留 秀明（昭和48年）
- 6 野見山 洋朗（昭和51年）
- 7 松永 幹夫（昭和51年）
- 8 立山 由生（昭和55年）
- 9 富永 吾郎（昭和56年）
- 10 渡邊 裕二（平成3年）

7 コメント：柔道王国と言われながら、暫く九州から選手を送り込んでおりません。この不名誉を挽回すべく今後も微力ながら塾柔道部強化のため、九州の地からエールを送り続けます。諸先輩方には、是非とも真夏の金鶯旗の際には、出張を作って九州までお越し下さい。

8 主な活動：ここ数年、7月の金鶯旗大会に合わせて高校生を招いての栄養会兼支部総会を開催しています。